

売上高DI値がプラス値へ、 経常利益、業況判断、運転資金調達の DI値も上昇しマイナス幅が縮小

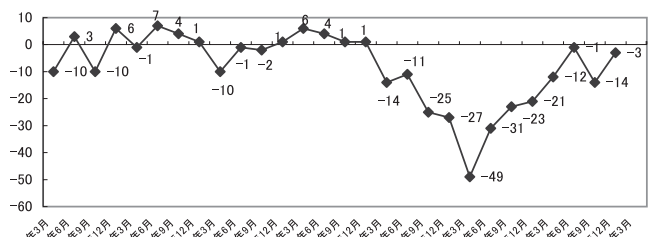
■売上高、経常利益、業況判断、運転資金調達

	2010年の7月～9月と比べて (前期比)				2009年10月～12月と比べて (前年同期比)				2010年の1月～3月と比べて (次期見通し)			
	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
売上高	36%	41%	23%	13	37%	35%	28%	9	23%	50%	27%	△4
経常利益	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
	25%	51%	24%	1	24%	49%	27%	△3	19%	56%	25%	△6
業況判断	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
	18%	55%	27%	△9	21%	49%	30%	△9	12%	59%	29%	△17
運転資金調達	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値	容易になる	変わらない	厳しくなる	DI値
	8%	79%	13%	△5	7%	78%	16%	△9	9%	72%	19%	△10

【調査要領】

- ①調査時:2010年12月5日～12月10日
- ②対象企業:熊本同友会会員企業
- ③調査の方法:FAXの送受信による自計記入を求めた
- ④回答企業数:608社より145社の回答を得た(回答率:23.8%)
(製造業19社、建設業28社、流通商業43社、サービス業52社、その他3社)
- ⑤平均従業員数:役員を含む正規従業員数 22.7人
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 18人

表2 経常利益DI(前年同期比)



■全項目の中で、売上高DI値がプラス値へ抜け出す

DI値(「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引く)の推移から見ると、前回調査2010年7月～9月と比べると、前年同期比(2009年10月～12月)では、売上高(表1)が△7から9へと16ポイント上昇し10期連続マイナスが止まりプラス値へ抜け出した。経常利益(表2)が△14から△3へと11ポイント上昇したが12期連続マイナス、業況判断(表3)が△24から△9へと15ポイント上昇するも15期連続マイナス、運転資金調達(表4)は前期比(2010年7月～9月)で、△7から△5へと2ポイント上昇したが、12期連続マイナスとなった。

日銀短観(2010年10月～12月期)をみると、業況判断DIは、前期比(2010年7月～9月)で製造業が△14から△12へと2ポイント上昇、非製造業が△21から△22へ1ポイント下降した。次期見通しは、製造業が△23で11ポイント下降、非製造業は△29で7ポイント下降とみている。

中小企業庁第122回中小企業景況調査(2010年10月～12月)

表1 売上高DI推移(前年同期比)

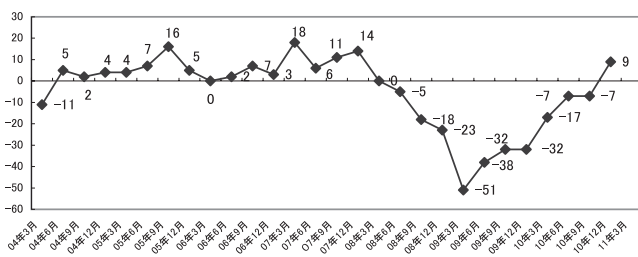


表3 業況判断DI推移(前年同期比)

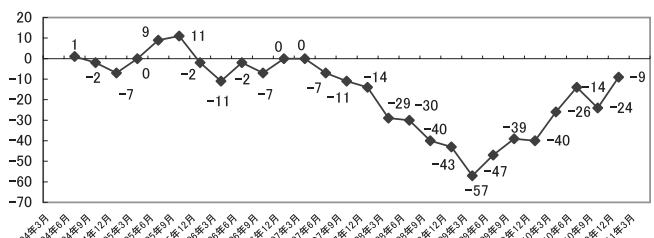
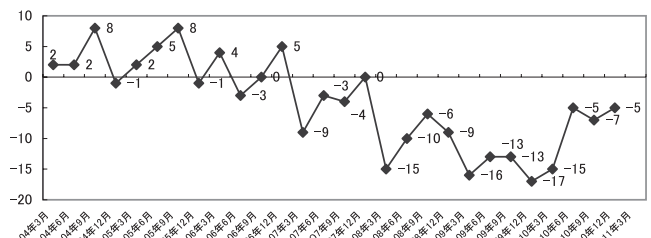


表4 運転資金調達DI推移(前期比)



期)では「中小企業の業況は、引き続き持ち直しの動きが見られるものの、製造業が2期続けて弱い動きを示すなど、依然として厳しい状況にある」としており、全産業の業況判断DIは、7期連続でマイナス幅が縮小した(△29.0から△27.9)。業種別では、製造業が△21.1から△22.3と2期連続でマイナス幅が拡大した。非製造業の業況判断DIは、△31.3から△29.8となり、7期連続でマイナス幅が縮小した。産業別みると、卸売業で2期連続マイナス幅が拡大したものの、建設業、小売業、サービス業でマイナス幅が縮小したとみている。

中小企業家同友会全国協議会発行の同友会景況調査報告(DOR)№93(2010年10月～12月)では、「駆け込み反動減から2011年初、景況悪化」としており、10月～12月期は業況判断DIで0から3へと3ポイント上昇したが、内訳は製造業が16から6ポイント悪化したにもかかわらず、非製造業の流通・商業、サービス業の駆け込み需要に支えられた改善によってなされたものであり、流通過程主導の片肺飛行であったといえると述べている。

■業種別

「売上高」「業況判断」「運転資金調達」で建設業がプラス値へ
 <製造業>

製造業(表5)は、前年同期比(2009年10月～12月)で売上高が△2と横ばい、経常利益が△5から△4へと1ポイント上昇した。業況判断が△4から△5へと1ポイント下降、運転資金調達では前期比(2010年7月～10月)で△3と横ばいとなった。

<建設業>

建設業(表6)は、前年同期比(2010年10月～12月)で売上高が△2から4へと6ポイント上昇、経常利益が△3から0へと2ポイント上昇、業況判断が△4から2へと6ポイント上昇、運転資金調達では前期比(2010年7月～9月)△2から2へと4ポイント上昇した。

<流通商業>

流通商業(表7)は、前年同期比(2009年10月～12月)で売上高が△5から3へと8ポイント上昇、経常利益が△7から△1へと6ポイント上昇、業況判断が△12から△4へと8ポイント上昇、運転資金調達では前期比(2010年7月～9月)で△2から△3へと1ポイント下降した。

<サービス業>

サービス業(表8)は、前年同期比(2009年10月～12月)で売上高が2から3へと1ポイント上昇、経常利益が2から0で横ばい、業況判断が△2から△4へ2ポイント下降し、運転資金調達では前期比(2010年7月～9月)で△1と横ばいとなった。

■金融機関の姿勢の変化

金融機関の姿勢の変化では、前回回答企業の7%が「ある」と答えたが、今回は8%(11社)だった。また、「ある」と答えた企業の変化の内容は、複数回答で「貸付攻勢」が10社、「金利アップを要求されている」が3社、「新たな貸し渋り」が1社となった。

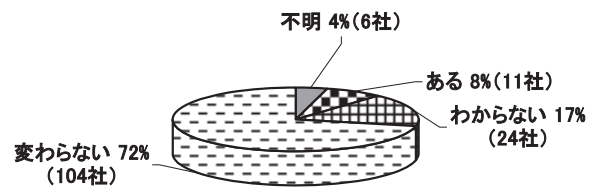
■経営上の問題点

経営上の問題点では、「価格競争の激化」が59%で前回同様1位、前回3位の「受注競争の激化」が42%で2位、前回2位の「売上げの減少」が41%で3位、前回12%で7位の「人件費の増加」が21%で4位に浮上した。

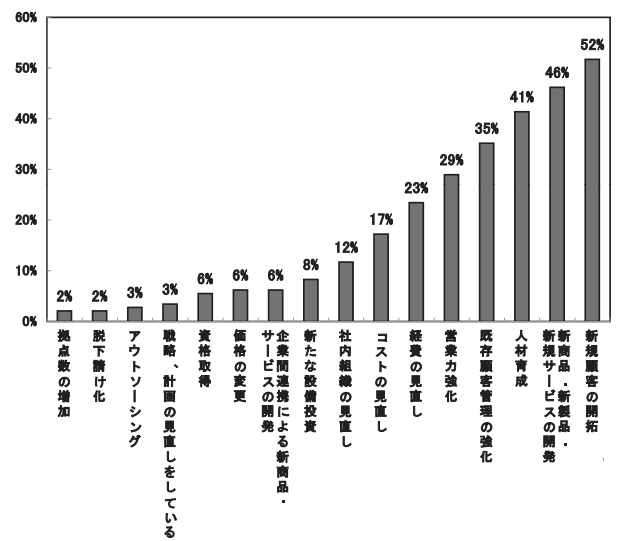
■現在取り組んでいる事柄

現在取り組んでいる事柄では、前回同様「新規顧客の開拓」が52%で1位、「新商品・新製品・新規サービスの開発」が46%で2位。前回31%で4位の「人材育成」が41%で3位に浮上、前回3位の「既存顧客管理の強化」は35%で4位、「営業力強化」は前回同様29%で5位となった。

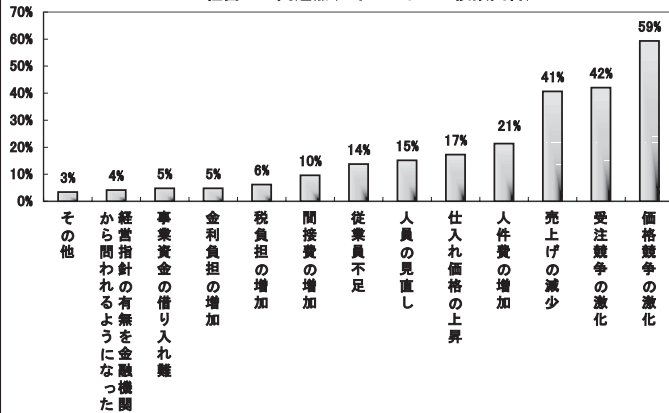
金融機関の姿勢の変化(割合)



現在取り組んでいる事柄(上位3つまでの複数回答)



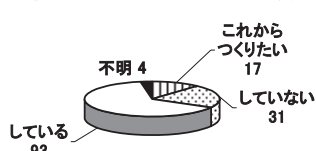
経営上の問題点(上位3つまでの複数回答)



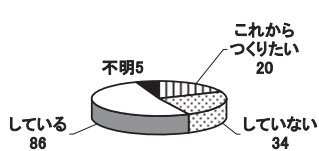
【特別調査】

経営指針の成文化について調査しました。(※経営指針とは、経営理念、経営方針、経営計画の3つの総称です)

経営理念を成文化しているか(社数)



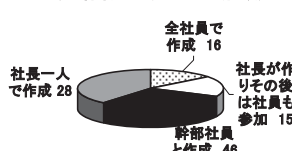
経営方針を成文化しているか(社数)



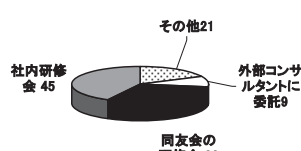
経営計画を成文化しているか(社数)



どのような体制で作りましたか(社数)



どのような方法で作りましたか(社数)



同友会の成文化の研修について(社数)

